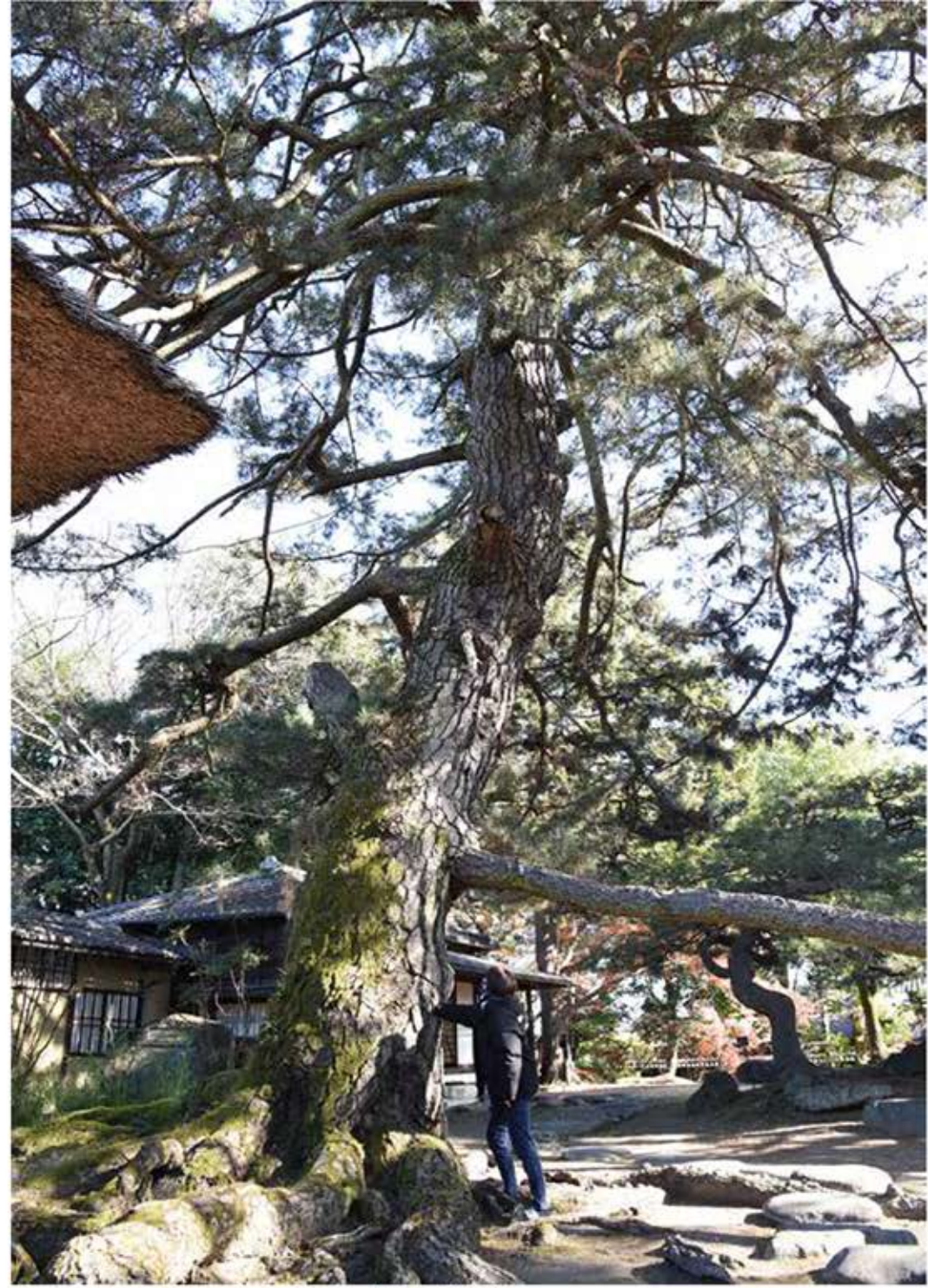




# 安藤家の 避雷針のマツ



安藤家の「避雷針のマツ」

西南湖にある国の重要文化財「安藤家住宅」。現在、宝永五年（一七〇八）に建築された茅葺屋根の主屋を中心とした建物群と広い庭園が一般に公開されています。その庭園にあるマツは、根回り二十メートル、目通り三・五メートル、樹高十九メートル。県下でも屈指の大きさを誇るクロマツで、現在は市の天然記念物に指定されています。もともと滝沢川左岸に生えていたマツを水害から守るため、安藤家に移植したと伝えられているのですが、近年では滝沢川の自然堤防上に生えていたこの木を取り囲む形で安藤家住宅を建築したのではないかと、いう説もあります。そうだとすれば、安藤家住宅が建築された約三百年前には、すでにシンボルツリーになるような相当な大木だったこととなります。

ところで、周囲から、一段と高くそびえるこのマツのてっぺんには、安藤家を守るため明治時代末頃に付けられたと伝えられる避雷針があり、そのことから、別名「避雷針のマツ」と呼ばれてきました。避雷針は、建築物を雷・落雷から保護する仕組みのひとつで、落雷の際に避雷針に雷を呼び込み地面へと電流を逃がすことで建物などへの被害を防ぎます。

避雷針の歴史に詳しい方によれば、明治時代に木に避雷針を取り付けたという事例は、当時では珍しく、また、現在設置されている避雷針がその当時のものであれば、その時代のものが残っていること自体も大変珍しいことなのだそうです。

安藤家を落雷から守ってきた「避雷針のマツ」ですが、現在は、敷地内に、より高い避雷針が別に設置されたことにより、実質的にその役割を終えています。

写真ではなかなか伝わりにくいのですが、実際に見ると、その大きさに圧倒されるはず。ぜひ一度、訪れてみてはいかがでしょうか。安藤家住宅は、年明け一月八日から営業。毎週火曜日が休館日です（この日が国民の祝日にあたる時は開館し、翌日が休館となります）。 文／写真 文化財課



(右上)マツのてっぺんに設置された避雷針。ドローンによる撮影。  
(右)現在安藤家を守る避雷針。  
(左上)マツの根まわりも、見ごたえがある。



安藤家住宅の主屋とその向こうにそびえる「避雷針のマツ」



※ 荘田崇之 2020 「明治時代の雷被害と樹木への落雷」『電設技術』 2月号